

は高く振りかざす。正しく並び、隊伍を整へて前進する、二組の間隔を適當に保たなければいけない。

「トチチテタ」二組共、止まつて内側を向き、向き合つて銃を打つ。即ち、ねらひを定め兩手を揃へて前方に突き出す。

「チチチテタ」そのまゝしやがみ、「タ」の時に兩掌をバツと開く。

終始勇敢に、然し各組共、整つて前進し、又二組があまり入り亂れない様注意する。

観 察

清水光子

季節の果物

今を酬の秋の自然は澤山の果物を贈つて呉れる。以前は色とりどりの美しい果物が店先に山と積れた時であるけれど今はさう數に於いて豊かにといふわけにはゆかない代りに果物についての話題が何と豊かになつた事か、南方新領土の、種類にしても量にしても大きい豊かな産物の一つとして、身近かある果物を観て描いたり、切紙したりし乍ら子ども達と話し度い、そんな時見た事のない子どもも多いことだから繪があれは見えるのもよいだらう。又何かの機會に手に入つたらさつそく見せてやり度い。感謝の心持と一しよにといふことは斯ういふ時いつもいふまでもない事。菊池先生が誘導保育の項で書いていらした平面的な果物店にしては面白い。二三種類づゝ時々切案で果物を切り、お皿やかご

の中に入れたやうにはりつけてゆく。一寸だけ糊をつけて置いてすぐとれるやうに、あとで子ども達銘々の帖面にはりつけてもよいであらう。又立體的に粘土で作つても紙粘土で作つても面白いが實物とあまりかけ離れた大きさにしないでよくみて較べてするやうに導き度い。

稻、刈入れ

田植の頃からすつと見てゆける様な幼稚園であると本たうに稻も、作る勞苦もわかるわけであるが都會地だつたら中々機會がない。遠足など機會ある毎にこれが稻だといふことをよく見せる。そしてその稻は植えるのから取入れるまでどんなに苦勞があるかといふことを具體的によく話してきかせる。例へば廣い田圃の泥の中へ一束づゝ植えるのであること、暑い／＼夏、カン／＼日でのりの中に草を取つたり虫をとつたりすること、など。殊更教訓的にだからお米を大切に——といふ話し方でなく具體的な話をしてきかせ度い。そしてそんな苦勞の揚句、よく出来たお米を前にしてのお百姓さんの喜びはどんなに大きいか、又自分達で作つたお米がこんなによく出来たのもみんな神様のお蔭だといつてお祭りすること、まづ神様に捧げ、召上つていたゞくのだといふことなどよく實つた黄金の波を前にして、刈入れてある所を前にして話してきかせ度い。

木の葉の紅葉

繻幼稚園の木の葉がほんの一晚のうちに紅葉してしまつたといふやうなこともあるこのごろ、毎朝落葉はきを子ども達と楽しんで

する。この木の葉もこんなに黄色になつたのね、する分散つた、きれいな赤い葉つ葉ね。など話して作らきれいな葉つばは集めて遊ぶ。地方によつてはする分木の葉遊びにいろ／＼工夫があるやうである、はつて模様をつくつたり、切つておもちゃを作つたり、布にたゞいて染めたりする。おまゝごこのごちさうにもならうしお皿にもなる。縦横にあそべる。その一方ぬりゑや切紙や寫生など、中でもきれいで形のいゝ葉をつかつてすることにする。

空

一年中で一番空のきれいなのは今ごろではないだらうか、それに遠足や運動會などで何かと空に關心をもつ機會も多い、今日は空を見ませうねといふのでなく、機會を捉へて空を見る。たゞ何と青い空なのでせうと言つて仰ぐだけでもいゝ、又ふと仰いだ空に形の面白い雲が浮んでゐるやうな時あの雲犬の顔のやうねなど話して見るのもいゝ、さういふことから次々に子どもは想像の世界に入つたり、又現實の世界に戻つたり、話し合ひ乍らみる。斯うした、觀察といふにはあまり淡いことのやうであるけどいゝことと思ふ。

菊

大岩先生の御指導でまことに小さい乍らおへやの前の箱鉢に菊が咲いた、小さくても香も高く、色も美しい。このごろのおへやの花瓶には菊をいつも活けて置く。高いが強すぎない香がお室にみちてゐることがある。いゝ香ね、と子どもと一しよにかいでみる。まゝごこのごちさうに、兵隊ごつこの勳章にといふ歌そのま

ま遊びに使つたり、寫生などの材料にする。この花が皇室の御紋章になつてゐることを話してきかせる。植物の中で分化の程度の高い花だといふことは保姆だけが知つてゐればよい。

談話

志村貞子

五郎さんと鬼 鳥を可愛がつてゐる五郎さんが或日釣りに行つて鬼につかまへられてしまひます。そこへ鳥が出てきて五郎さんなたすけ、五郎さんに、鬼の寶物の絲と刀を渡して、「鬼に追ひかけられたらこれを後の方に一つ々つおなげなさい」と教へます。五郎さんがぞん／＼逃げ出しますと、氣がついた鬼は風のやうに早く走つて追ひかけて來ました。すぐに追ひつかれさうになりましたので、五郎さんが、一筋の絲を後に向つて投げますと、忽ち大きな山が出來てしまひました。鬼が一生懸命山を登つてゐる間に、五郎さんは大分逃げましたけれどまたすぐに追ひつかれさうになりました。そこで刀をさつと後に投げますと、みる／＼中に大きな川になり、あたり一面霧でみえなくなつたので鬼はたうとう五郎さんを見失つてしまひ、五郎さんは無事にお家へ歸られたといふお話です。古事記の黄泉の國を云々するまでもなく、亦外國の童話をひくまでもなく、このお話はこのお話として面白いと思ひます。たゞ鬼への恐怖と興味で子供達を引きづることのないやうにしたいと思ひます。鬼と本當の鬼ごつこをした五郎さん